

## 安全データシート

作成日：2019年10月28日

### 1. 化学品及び会社情報

製品名 : 硝酸ニッケル六水和物  
会社名 : チカモチ純薬株式会社  
住所 : 大阪市北区大淀南1-9-16(山彦ビル)  
担当部門 : 営業部門  
電話番号 : 06-6453-2062  
FAX番号 : 06-6453-2063

### 2. 危険有害性の要約

GHS分類

物質又は混合物の分類

酸化性固体	区分3
呼吸器感作性	区分1
皮膚感作性	区分1
発がん性	区分1A
生殖毒性	区分2
1. 特定標的臓器毒性(反復暴露)	区分1(呼吸器系) 区分2(中枢神経系、肝臓、男性生殖器)

絵表示



注意喚起語

危険

危険有害性情報

火災助長のおそれ: 酸化性物質

吸入するとアレルギー、ぜん(喘)息又は呼吸困難を起こす恐れ

発がんの恐れ

生殖能又は胎児への悪影響の恐れの疑い

アレルギー性皮膚反応を起こす恐れ

長期暴露、反復暴露により障害を生じる: 呼吸器系

長期暴露、反復暴露により障害を生じる恐れ: 中枢神経系, 肝臓, 男性生殖器

#### 注意書き-(安全対策)

- ・ 使用前に取扱説明書を手に入ること。
- ・ すべての安全予防措置を読み、理解するまでは取り扱わないこと。
- ・ 個人用保護具を着用すること。
- ・ 換気が不十分な場合、呼吸用保護具を着用する。
- ・ 汚染された作業衣は作業場から出してはいけません。
- ・ 保護手袋
- ・ 粉じん／煙／ガス／ミスト／蒸気／スプレーを吸入しないこと。
- ・ 取扱い後には顔や手など、ばく露した皮膚を洗う。
- ・ この製品の使用時には飲食、喫煙は禁止。
- ・ 熱、火花、裸火、熱い面から離して保管すること-禁煙。
- ・ 衣服/可燃物を避けて保存/保管する。
- ・ 可燃物との混合を避ける予防措置をすること。

#### 注意書き-(応急措置)

- ・ ばく露、もしくはその恐れがある場合、医師の治療を受けること。
- ・ 皮膚に付着した場合、多量の水と洗剤で洗浄する。
- ・ 皮膚に炎症や発疹が起きた場合、医師の治療を受けてください。
- ・ 再使用の前に汚染された衣服を洗う。
- ・ 吸入し、呼吸が困難な場合、患者を新鮮な空気のある場所に避難させ、呼吸が楽な姿勢で休息をさせること。
- ・ 呼吸器系の症状がある場合、毒劇物センターもしくは医師に連絡をしてください。

注意書き-(保管) ・ 施錠して保管。

注意書き-(廃棄) ・ 内容物および容器は承認された廃棄物処理場に廃棄すること。

その他 ほかの危険有害性 情報なし

### 3. 組成及び成分情報

純物質もしくは混合物	単一物質
化学式	Ni(NO <sub>3</sub> ) <sub>2</sub> ·6H <sub>2</sub> O
化学名	硝酸ニッケル(II)六水和物
重量パーセント	99.9(差数法)
分子量	290.79
化審法官報公示番号	(1)-485
安衛法官報公示番号	N/A
CAS番号	13478-00-7
不純物または安定化添加剤	非該当

#### 4. 応急措置

##### 吸入した場合

新鮮な空気のある場所に移すこと。症状が続く場合には、医師に連絡すること。

##### 皮膚に付着した場合

すぐに石鹼と大量の水で洗浄すること。症状が続く場合には、医師に連絡すること。

##### 眼に入った場合

眼に入った場合、数分間目を閉じて洗浄する。もしコンタクトを装着していて、容易に取り外せるなら、取り外す。その後も洗浄を続ける。直ちに医師の手当てを受ける必要がある。

##### 飲み込んだ場合

口をすすぐ。意識のない人の口には何も与えないこと。ただちに医師に連絡すること。医師の指示がない場合には、無理に吐かせないこと。

##### 応急処置をする者の保護

個人用保護具を着用すること。

#### 5. 火災時の措置

##### 消火剤

大量の水。

##### 使ってはならない消火剤

粉末、泡消火剤。

##### 特有の消火方法

利用可能な情報は無い。

##### 火災時の特有危険有害性

熱分解は刺激性で有毒なガスと蒸気を放出することがある。

##### 消火を行なう者の保護

個人用保護具を着用すること。消防士は自給式呼吸器および消火装備を着用する必要がある。

#### 6. 漏出時の措置

##### 人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

屋内の場合、処理が終わるまで十分に換気を行う。漏出した場所の周辺に、ロープを張るなどして関係者以外の立ち入りを禁止する。作業の際には適切な保護具を着用し、飛沫等が皮膚に付着したり、ガスを吸入しないようにする。風上から作業して、風下の人を待避させる。

##### 環境に対する注意事項

漏出した製品が河川等に排出され、環境への影響を起ささないように注意する。汚染された排水が適切に処理されずに環境へ排出しないように注意する。

##### 封じ込め及び浄化の方法及び機材

飛散したものを掃き集めて、密閉できる空容器に回収する。

##### 回収、中和

利用可能な情報は無い

## 二次災害の防止策

環境規制に従って汚染された物体および場所をよく洗浄する。

## 7. 取り扱い及び保管上の注意

### 取扱い

#### 技術的対策

可燃物及び還元剤との接触を避ける。吸湿性に注意。局所排気装置を使用すること。

#### 注意事項

容器を転倒させ落下させ衝撃を与え又は引きずる等の粗暴な扱いをしない。漏れ、溢れ、飛散などしないようにし、みだりに粉塵や蒸気を発生させない。使用後は容器を密閉する。取扱い後は、手、顔等をよく洗い、うがいをする。指定された場所以外では飲食、喫煙をしてはならない。休憩場所では手袋その他汚染した保護具を持ち込んではいならない。取扱い場所には関係者以外の立ち入りを禁止する。

#### 安全取扱注意事項

皮膚、眼、衣服との接触を避ける。個人用保護具を着用すること。

### 保管

#### 安全な保管条件

##### 保管条件

直射日光を避け、換気のよいなるべく涼しい場所に密閉して保管する。

##### 安全な容器包装材料

ポリエチレン

混触禁止物質 強酸, 還元剤, 有機物, 可燃物

## 8. ばく露防止及び保護措置

### 設備対策

屋内作業場での使用の場合は発生源の密閉化、または局所排気装置を設置する。取扱い場所の近くに安全シャワー、手洗い・洗眼設備を設け、その位置を明瞭に表示する

### ばく露限界

#### 化学名

硝酸ニッケル(II)六水和物13478-00-7

#### 日本産業衛生学会

TWA: 0.01 mg/m<sup>3</sup> OELISHL/ACL: 0.1 mg/m<sup>3</sup>

#### 管理濃度 作業環境評価基準

ISHL/ACL: 0.1 mg/m<sup>3</sup>

#### 米国産業衛生専門家会議(ACGIH)

TWA: 0.1 mg/m<sup>3</sup> Ni inhalable Fraction

## 保護具

呼吸器用保護具	防塵マスク
手の保護具	保護手袋
眼の保護具	側板付き保護眼鏡(必要によりゴーグル型または全面保護眼鏡)
皮膚及び身体の保護具	長袖作業衣
適切な衛生対策	産業衛生および安全の基準に基づいて取り扱う。

## 9. 物理的及び化学的性質

### 形状

色	緑色
性状	結晶～結晶性粉末
臭い	無臭
pH	データなし
融点・凝固点	56.7°C
沸点, 初留点及び沸騰範囲	136.7°C
引火点	データなし
蒸発速度	データなし
燃焼性(固体、ガス)	データなし
燃焼又は爆発範囲	上限: データなし 下限: データなし
蒸気圧	データなし
蒸気密度	データなし
比重・密度	2.05
溶解性	水, エタノール: 溶けやすい。
n-オクタノール/水分配係数	データなし
自然発火温度	データなし
分解温度	データなし
粘度(粘性率)	データなし
動粘度	データなし

## 10. 安定性及び反応性

### 安定性

安定性	吸湿性がある。
反応性	データなし
危険有害反応可能性	通常の処理ではなし。

避けるべき条件	高温と直射日光, 湿気
混触危険物質	強酸, 還元剤, 有機物、可燃物
危険有害な分解生成物	窒素酸化物(NO <sub>x</sub> ), ニッケル酸化物

## 11. 有害性情報

急性毒性	経口 ラット LD50 = 1620mg/kg (RTECS)から区分4とした。 飲み込むと有害(経口)(区分4) 経皮 データがないため分類できない。 吸入(気体)分類対象外。(GHS定義における固体であるため) 吸入(蒸気)データがないため分類できない。 吸入(粉塵、ミスト)データがないため分類できない。
皮膚腐食性・刺激性	データがないため分類できない。 (参考データ)当該製品のデータはないが、ニッケル化合物は皮膚刺激性があるといわれている。
眼に対する重篤な損傷・刺激性	データがないため分類できない。
呼吸器感作性	当該製品のデータはないが、ニッケル化合物として日本産業衛生学会の許容濃度等の勧告(2005)で気道感作性物質(第2群)に分類されているため、安全性を考慮して区分1に分類した。吸入するとアレルギー、喘息又は呼吸困難を起こすおそれ(区分1)
皮膚感作性	当該製品のデータはないが、ニッケル化合物として日本産業衛生学会の許容濃度等の勧告(2005)で皮膚感作性物質(第1群)に分類されているため、安全性を考慮して区分1に分類した。 アレルギー性皮膚反応を引き起こすおそれ(区分1)
生殖細胞変異原性	データがないため分類できない。
発がん性	当該製品のデータはないが、ニッケル化合物として、NTPでR(ヒトに対して発がん性がある)に分類され、ACGIHでA4(発がん分類できない)(ニッケル水溶性化合物)に分類され、また、IARCでグループ1(ヒトに対して発がん性がある)に分類され、さらに、日本産業衛生学会で「第1群」(人間に対して発がん性がある物質)に分類されている。 GHS分類規則に従い、IARCのデータを優先し区分1Aに分類した。 発がんのおそれ(区分1A)
生殖毒性	データがないため分類できない。
特定標的臓器・全身毒性(単回暴露)	データがないため分類できない。 (参考データ)当該製品のデータはないが、ニッケル化合物のヒトでの急性毒性と

しては「悪心、下痢、眩暈、頭痛」(ECETOC TR33 (1989))がみられた。

特定標的臓器・全身毒性(反復暴露) データがないため分類できない。

(参考データ) 当該製品のデータはないが、ニッケル化合物のヒトでの慢性毒性としてはニッケル及びニッケル化合物の暴露はたとえ職業曝露許容量に近い量での暴露でも呼吸器経路の刺激性の変性の要因となりうる。

長期間の高濃度暴露は肺線維症を引き起こすと考えられる」(ECETOC TR33 (1989))がみられた。

吸引性呼吸器有害性 データがないため分類できない。

## 12. 環境影響情報

生態毒性 利用可能な情報はない

その他のデータ

化学名	硝酸ニッケル(II)六水和物
水生環境有害性(急性)分類根拠	データなし
水生環境有害性(慢性)分類根拠	データなし

残留性・分解性	利用可能な情報はない
生体蓄積性	利用可能な情報はない
土壌中の移動性	利用可能な情報はない
オゾン層への有害性	利用可能な情報はない

## 13. 廃棄上の注意

残余廃棄物

廃棄は地域、国、現地の適切な法律、規制に則る必要がある。

汚染容器及び包装

廃棄は地域、国、現地の適切な法律、規制に則る必要がある。

## 14. 輸送上の注意

ADR/RID(陸上)

国連番号	UN2725
品名	Nickel nitrate
国連分類	5.1
副次危険性	
容器等級	III
海洋汚染物質	非該当

## IMDG(海上)

国連番号	UN2725
品名	Nickel nitrate
国連分類	5.1
副次危険性	
容器等級	III
海洋汚染物質	非該当
MARPOL73/78やIBCコードに則ったバルクの輸送	利用可能な情報はない

## IATA(航空)

国連番号	UN2725
品名	Nickel nitrate
国連分類	5.1
副次危険性	
容器等級	III
環境有害物質	非該当

## 15. 適用法令

## 国際インベントリー

EINECS/ELINCS	-
TSCA	-

## 国内法規

消防法	非該当
毒物及び劇物取締法	非該当
労働安全衛生法	名称等を表示すべき危険物及び有害物(法57条、 施行令第18条) 特定化学物質第2類物質 名称等を通知すべき危険物及び有害物(法第57条の2、 施行令第18条の2別表第9)No.418 作業環境評価基準(法第65条の2第1項) 危険物・酸化性の物(施行令別表第1第3号)
危険物船舶運送及び貯蔵規則	酸化性物質類・酸化性物質(危規則第3条 危険物告示別表第1)
航空法	酸化性物質類・酸化性物質(施行規則第194条危険物告示別表第1)
PRTR法	特定第1種指定化学物質(法第2条第2項、施行令第1条 別表第1、施行令第4条)
特定第1種-No.	309



水質汚濁防止法	指定物質(法第2条第4項、施行令第3条の3) 有害物質 (法第2条、施行令第2条、排水基準を定める省令第1条)
輸出貿易管理令	非該当
大気汚染防止法	有害大気汚染物質(優先取組物質)

## 16. その他の情報

引用文献および参照ホームページ等

NITE: 独立行政法人 製品評価技術基盤機構

<http://www.safe.nite.go.jp/japan/db.html>

IATA危険物規則書

RTECS: Registry of Toxic Effects of Chemical Substances

中央労働災害防止協会 GHSモデルSDS情報

有機合成化学辞典(社) 有機合成化学協会講談社サイエンティフィック

化学大辞典共立出版 等

## コメント

この安全データシート(SDS)は、JISZ7253:2012に準じており、記載されている内容は、発行時点において、入手可能な情報・データに基づいて作成しています。運搬・開封から廃棄に至るまで、安全を最優先に、ご自身の責任においてご使用下さい。また、ここでの注意事項は通常の手配り方をすることを前提に記載しており、他の製品と混ぜ合わすなどの特殊な取扱い方法は想定しておりません。その際は、使用環境に適した安全対策を自ら実施し、安全確保の上、ご利用下さい。なお、全ての製品には、未知の危険性を有する可能性があります。新たな知見が得られた時は、許可無く変更する場合があります。また、物性値や危険有害性情報などは、弊社製品規格書等とは異なることもあります。また、いかなる保証をなすものでもありません。